

平成27年11月4日

文化庁は、平成24年11月に設置した国立近現代建築資料館において、我が国の近現代における著名な建築・建築家の建築資料に関する、収集、保管、展示、調査研究等の事業を行っています。

このたび、我が国の近現代建築資料が持つ文化的・芸術的・学術的価値を広く発信する取り組みとして、企画展示「みなでつくる方法—吉阪隆正+U研究室の建築」を開催しますのでお知らせします（別添資料）。

開催概要

- ・名称：みなでつくる方法—吉阪隆正+U研究室の建築
- ・会期：平成27年12月3日（木）～平成28年3月13日（日）
- ・会場：文化庁国立近現代建築資料館
（東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内）
- ・開館時間：10:00～16:30
- ・休館日：平成27年12月13日（日）、12月29日（火）～平成28年1月3日（日）
- ・主催：文化庁

・シンポジウム1：平成27年12月6日（日）14:00～16:00

テーマ＝「吉阪隆正+U研究室による集団設計」

会場＝アテネ・フランセ4階講堂（東京都千代田区神田駿河台2-11）

出演＝藤森照信、重村力、伊勢崎賢治

司会＝中谷礼仁

定員＝150名（要事前申込、参加費無料）

・シンポジウム2：平成28年2月20日（土）14:00～16:00

テーマ＝「ヴェネチア・ピエンナーレ日本館から大学セミナー・ハウスへ」

会場＝大学セミナー・ハウス講堂（東京都八王子市下柚木1987-1）

出演＝鈴木恂、戸沼幸一、富田玲子

司会＝青藤祐子

定員＝150名（要事前申込、参加費無料）

・ギャラリートーク：平成28年3月上旬（調整中）

テーマ＝「吉阪隆正のことばから」

会場＝国立近現代建築資料館資料室

出演＝未定

司会＝前川歩

【みなでつくる方法】吉阪隆正+U研究室の建築】
吉阪隆正氏は、一九六二年（昭和三十七年）竣工の
江津市庁舎（島根県）を設計

<担当> 文化庁長官官房政策課

課長 佐藤 安紀（内線2803）

課長補佐 所 昌弘（内線2804）

資料館係長 板場 直明

電話： 03-5253-4111（代表）

03-3812-3401（資料館係直通）

【展覧会のみどころ】

「みなでつくる方法—吉阪隆正+U研究室の建築」では、国立近現代建築資料館に収蔵された、約8,500点の図面をもとに、彼らのユニークな建築とそのつくられ方を紹介します。

考現学の今和次郎を師とし、パリのル・コルビュジエのアトリエでの経験を経て建築家として開花した吉阪隆正は、同時に教育者、極地を踏破した探検隊長、そして文明論者でした。

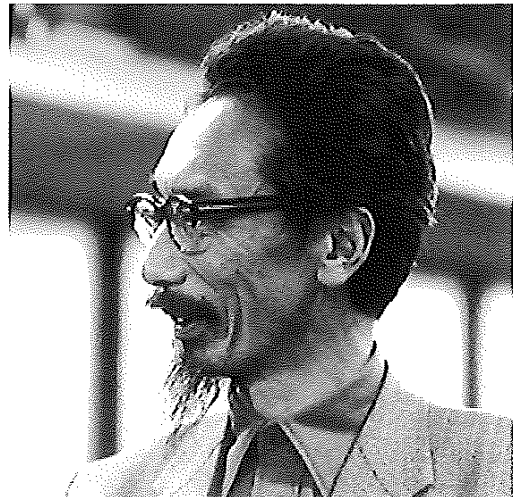
U研究室は吉阪の活動に共鳴した若い協力者によって構成され、そのアトリエではたくさんの「ことば」と「かたち」とが模型を介しながら、建築作品として結実していきました。

本展では、吉阪の世界観にもとづく集団設計方法である「不連続統一体—DISCONT」を「みなでつくる方法」と捉え直し、彼らの年代ごとの主要なプロジェクトを、図面、吉阪自身のことば、模型、関係者への聞き取り、現存する建築断片などで構成して展示します。彼らの方法は、分業化がますます進みつつある現代建築においても有効な建築の社会的役割を示唆しています。

【建築家紹介】

吉阪隆正 (よしざかたかまさ/YOSIZAKA Takamasa)

1917年東京都生まれ。33年ジュネーブ・エコール・アンテルナショナル卒業。41年早稲田大学理工学部建築学科卒業。59年早稲田大学教授。69年早稲田大学理工学部長。73年日本建築学会会長。今和次郎に師事して民家調査、住居学に取り組んだあと、50年から2年間、パリのル・コルビュジエのアトリエに勤務。54年に吉阪研究室(64年にU研究室へ改組)を設立。建築家としてだけでなく、教育者、アルピニスト、文明批評家としても多くの著書を残した(『吉阪隆正全集』全17巻(勁草書房、84~86))。ル・コルビュジエの著書『建築をめざして』などの翻訳も行なう。80年、63歳で逝去。



<主な作品>

- 1955年 吉阪自邸
 - 1955年 浦邸
 - 1956年 ヴィラ・クウクウ
 - 1956年 ヴェネチア・ビエンナーレ日本館
 - 1957年 海星学園
 - 1958年 呉羽中学校
 - 1958年 日仏会館
 - 1959年 江津市庁舎
 - 1959年 コンゴ・レオポルドビル文化センター計画国際競技設計
 - 1960年 アテネ・フランセ
 - 1963年 大学セミナー・ハウス
 - 1965年 大島元町復興計画
 - 1970年 箱根国際観光センター競技設計
- * 吉阪自邸は竣工年、その他は設計開始年

江津市庁舎
(島根県)

